

# The Gallery

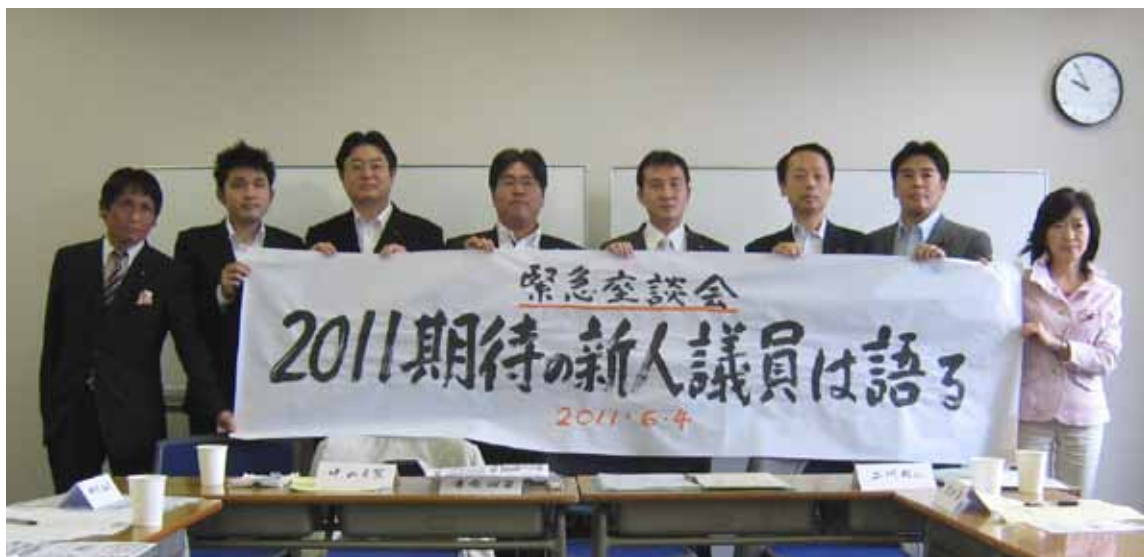
© ザ・ギャラリー

2011(平成23)年7月24日(日) 発行・相模原市議会をよくなる会(設立1999年)

6月定例会版

## 今期期待の8新人議員は語る

### “議会改革はまかせろ！”



(写真左から) 大槻 研(みんなのクラブ)、小田貴久(民主・新無所属の会)、小林倫明(みんなのクラブ)、大田 浩(日本共産党)、市川 圭(みんなの党相模原)、大崎秀治(公明党)、中村知成(民主・新無所属の会)、桜井はるな(民主・新無所属の会)(敬称略)

(司会は本会の赤倉昭男代表と中山貞望副代表)  
●司会 76人もの候補者が戦った選挙戦で見事当選されたみなさん、おめでとうございます。今日はお忙しいところ、この座談会を最優先して参加していただ

き、ありがとうございました。まず自己紹介を兼ねて、なぜ自分が当選できたのかを、お話しください。最初の発言は、議会HPの会派順に行きましょうか。

統一地方選挙の余韻が残る一方、新たな職場である6月定例会が始まった6月4日(土)早朝から、8人の新人議員が、相模原市民会館での本会主催の座談会に出席した。市民40人あまりが傍聴、室内は熱気に包まれた。



中村新議長へのインタビュー記事はP4～6に掲載

#### □ The Gallery 第49号目次 □

- 今期期待の8新人議員は語る P1
- 中村新議長インタビュー P4
- 傍聴報告
  - ◇5月臨時会 P7
  - ◇6月定例会 P7～10
- 傍聴席でのデジタル機器使用はダメ P7

- 市議選で無効票・白票が急増! P11
- 「全員協議会」で3議員が厳しい発言 P11
- 有力地方紙が「通信簿」を紹介し論評 P11
- 記事転載 P11
- 日経グローバル誌に活動紹介 P12
- 高校授業の教材に通信簿 P12
- 編集後記・入会申込書 P12

★本紙名の The Gallery は、欧米では議会などの傍聴席を意味します。

「相模原市議会をよくなる会」は不偏不党・中立の立場で活動しています。

**小田** ここで生まれ育って29年、世話になった地域への恩返しです。3.11大震災で暗い選挙ムードの中で、自分の若さと新しい力が支持されたと思います。

**桜井** 今は鶴野森ですが、もともと座間で、大和高校に通っていました。その後、南カリフォルニア州立大学で作曲を学びました。これまでは医療、介護の職場で働いてきました。当選したのは自分の名前のおかげで、春の選挙に桜は覚えやすいし、世の中明るくなるとアピールできたと思う。

**中村** 衆参両国会議員の秘書時代に市民の悩みを知ったが、秘書では自ら解決できないので、議員として直接解決したかった。民主の逆風の中でも、年明けから許される範囲で運動してきたことが勝因だと思う。

**大崎** 南大野地区の小中学校から厚木高校で学んだ。家業の養鶏場は鶏の病気で借金、貧しかった。早くに母をガンで亡くし、大学も中退した。苦勞して行政書士の資格をとり18年間働いてきた。市民のために役立ちたい。当選は支えてくれた人のおかげです。

**大田** 奈良で生まれ各地を転々、大和市から相模原に越してきて3年たった。最初は暮らしにくいところだと思ったが、人に訊くと、中途半端に便利だという。選挙中は私は共産党らしくない、公明党かみんなの党と思われたりした。そこのところを生かしたい。(笑) 当選したのは自分は話しやすいからだと思う。

**大槻** 相模大野の近くで育った。父は厚労省の役人、母は市の教員です。早稲田大学法学部卒だが、学生時代の革マル派運動に疑問、彼らに反発した。自民党の選挙対策で全国をまわった。当選したのは私の覚悟と気迫と「みんなの党」の風だと思う。

**小林** 子どもの頃は城山でした。大学卒業後、国会議員の政策秘書をやり、その経験から、自分の責任で仕事をしたいと思ったのが出馬の理由ですが、当選の理由は「みんなの党」の公認をもらったことだと思う。

**市川** 私は国立相模原病院で生まれ、鶴ヶ丘小、上鶴間高、東京農大に通いました。父の仕事で小平、滋賀の天津、マニラなどで生活しました。当選の理由は、「みんなの党」の名前と民間企業で働いたための自由な発想が皆の賛同を得たと思う。

●**司会** それでは次に、一番やってみたいことと、出来れば今の会派を選んだ理由も教えてください。

**桜井** 子どもや老人介護で苦勞しています。女性は堪え忍ぶことだけでいいのか、アフリカ以下の男女共同参画社会でもあります。まずは子どもの医療費ゼロ、次はガン対策の啓発をやっていききたいです。

**小田** やりたいことは議員の定数半減です。議員は多すぎる。自分の選挙区以外の人の公約を初めてみたが、同じ思いの人もおり、会派をこえて共に活動していきたいと思う。

**中村** 南区19人の多い定数も、選挙活動をきちんとやらないと落選する。議員の仕事をやればやるほど、選挙活動がおろそかになる。仕事に精を出すと、有権者からいうと、あいさつに来ないとなる。マスコミは政治家を面白おかしい存在にしている。

(注：ここで市民の野次「議員は何をやっているか訊きたい。議員は要らない」)

**大崎** 適正な人数は議会で決めるが、公明党は定数を減らすことには賛成だが、必要ないとまではどうか。二代表制と言うこともある。仕事の内容を考えると報酬は高いかも知れないが、仕事も増えているし、しっかり取り組みたい。後見人問題、人権、財産保護、頑張りたい。

**大田** 議会報酬については高いと思う。削減はOKです。定数の削減は市民の意識を多く吸い上げるためには反対だ。是非やりたいことはコミュニティーバスの導入。赤字であっても必要なことで、大和市で実施している「のろっ子」が参考になると思う。

**市川** 「みんなの党」は2会派に分かれた。一緒にやりたかったが運営上の食い違いがあった。当面、小回りを優先させていくつもり。やりたいことは、議員定数の削減です。それと報酬も、さっき会場の誰か言ったように月20万円はさておき、大崎さんたちが言ったように削減をしたい。相模原市の経済を作っていききたいです。

**小林** 会派のことは、他の二人とは今日からでも一緒にやってもいいと思っている。一番やりたいことは市

出席議員(50音順)  
市川 圭(みんなの党相模原)  
大崎秀治(公明党)  
大田 浩(日本共産党)  
大槻 研(みんなのクラブ)  
小田貴久(民主・新無所属の会)  
小林倫明(みんなのクラブ)  
桜井はるな(民主・新無所属の会)  
中村知成(民主・新無所属の会)

の経済です。市のアイデンティティーになるものを作りたい。企業誘致の優遇策での特区もやりたい。また、党のアジェンダにもある報酬と定数の削減です。

**大槻** 相模原市の議員の中に政治家はひとりもない。今度の震災、いまこそ政治家が求められている。偉そうなバッジに見合う政治家はいるのか。正直、私はもう議会の異端児になっているが、今までの議員と違う行動をしていきたい。

●**司会** ここで、皆さんの議会改革についての考えを知りたい。

**大田** 陳情者に10分でもいいから呼んではなしをしてもらい、質疑もできる仕組みをつくりたい。それと、傍聴者も発言できる仕組みを作ればいいと思う。

**桜井** 私は全て主婦の感覚で行動しています。議会に入って驚いたのは、膨大な書類の山でした。何が重要なものかわからない。いっそのこと皆にパソコンを配り、さっとみれるようにしたいですね。そんな山のような書類を将来的に崩していきたい。

**大崎** 桜井さんと同じ感想。先日、事務局に議場へのパソコン持ち込みを訊いたら、傍聴者にゲームをやっているとされるからダメと言われた。文書をPDFにしようとするのが難しいのだが。六法全書もダメだった。先輩の話だが、電卓もカチャカチャいうからダメ。国会ではパソコンを持込めない会議はなかった。選挙や議員定数問題もあるが、時間が無いので、ここまでにしておきたい。

**市川** 今後は移行期間を設けてペーパーレス化にするのがいい。議会の改革としては、他の議会でもやってきている反問権があるのもいい。また、区民会議のオピニオンリーダーを議会に招いて話しを聞くのもいいと思う。

**小林** 議員が市側にご気嫌伺いや気遣いをしている。

それは違うと思う。議会の独立性が必要だ。議会事務局は保守的。条例作成のことをいうと、何を考えているのかという顔をする。また、大会派では発言が遮られ、長老支配のようだ。例えば65才定年制などが必要だとおもう。

**大崎** 公明党は、次の選挙で65才に達する人は出馬しない。議会では経験が大事だと言うが、退職後も先輩としてアドバイスをもらっている。

**大槻** 市の職員化している議員や市側の追認機関になっている議会も問題だ。小林議員も条例案のことを言ったが、議会は立法機関だ。ある資料をもらったが、フローチャートの中に市の提案ばかりで、市民提案がなかった。われわれは身軽な会派グループだからこんな発言が出来る。今月末に市長の所信表明演説について一般質問するが、風通しをよくし、議会の暗い空気を活性化したい。討議を委員会でやらないでくれと言われていたが、真の政治家として追求していく。

●**司会** ところで、これからは市行政に厳しい目を向けて行く皆さんが、いま思う市行政の問題点を語ってください。

**市川** 政令市についての権限と責任の説明がほしかった。リニア新駅でも、2200億円の費用対効果を市はきちんと調べてないで設置に前向きなのはおかしい。民間からの知識が必要だ。市民とふれあう市政の体質が必要だと思う。

**大崎** 議会基本条例をつくり議会を強くする必要がある。議員には4000人の職員を使える力量とチームワークが必要だ。公明党には新人3人がいて、特許に強いものや、もと市職員もいる。行政の隠したいところも聞ける体制だ。団結して政策実現に結び付け、改革していきたい。

**大槻** 政令市になり、横浜や川崎との激戦となるが、本市の発信力は一般市並だ。大阪や名古屋はダイナミズムがある。われわれはそんな市を作っていきたい。

「相模原市議会をよくする会」も議会や行政を変えてきている。議員になって痛感したのは、市議会は閉鎖的だということだ。

**小林** 市長のまわりは何も言いたいことが言えない。「安心・安全のまちづくり」のためと言えれば何でも通ってしまう現状、市長に物怖じせず発言していきたい。



●**司会** いろいろと率直なお話をありがとうございました。これから6月議会の山場がやってきます。一般質問を予定している人も、どうか先輩議員に臆することなく、活発な発言をしていくことを期待します。それでは最後にまとめとして、二川副代表からお願いします。

●**まとめ** 皆さん、ありがとうございました。石の上にも3年という言葉がありますが、IT時代は石の上にも3ヶ月、早く仕事をマスターしてもらいたい。フレッシュなご意見を聞き、市は良くなると期待している。みなさんは市民の公僕、このことを忘れず、プロの政治家として活躍して欲しい。その意味で三つのお願いがあります。一つは、洞察力・先見性・分析力の必要性です。いま、口は達者だが、財政分析や計算管理ができないのに、俺はエライんだ、若い者はもの言うなという環境だが、若い力で跳ね返してほしい。

二つ目は、議会改革。ある全国議会の改革度調査では、町田市は6位に入っているが、相模原は100位にも入っていない。町田では陳情者を招き提案理由を聞いている。相模原では紙一枚を見ながらいいとか悪いとか言っている。三つ目は、常任委員会の配属。例えば、環境経済委員会には新人5人が入った。どのような運営になるか注目です。委員会はいくらでも質問できるのだから、事前によく勉強してどんどん発言して欲しい。「私は素人でよくわからないが」と、何期もやっているのに言う委員がいる。私たちはきちんとチェックしている。最後に、皆さんは会派に入っているが、会派に埋没しないでください。いろいろと注文したが、どうか初心を忘れず、フレッシュな気持ちでいてください。“公約”は忘却の彼方になって仕舞いがち。期待しているので、健康第一で過ごして欲しい。私たちも議会改革を実現するために協力していきます。■

## 中村新議長インタビュー

“市民を呼べる議会運営をしたい” “議会改革は議員提案の活発化で”

市議会6月定例会の期間中の6月21日(火)、本会は第43代議長・中村昌治氏を議長室に訪問、就任後初のインタビューを行った。

**問** ご就任おめでとうございます。49才という若さの議長は政令指定都市では珍しいことではありませんか。

**議長** ありがとうございます。若いと

言われても、例えば千葉市の議長はまだ37才ですよ。ただ、彼は25才で議員になっていたのが当選4回ですが、私は3回目。そういう意味では早いほうなのかも知れませんが、ギネスブックに載るほどじゃないですよ。

**問** 今日は議会改革の前触れとして、質問の事前通告なし、1問1答形式で行きたいと思えます。まず、就任後1ヶ月経ちましたが、手始めにしたことは何ですか。

**議長** 東日本大震災のため、節電対応をしました。例えば本会議中には、議会棟の照明を昼休みは80～90%落としています。

ただ、開会中はインターネット中継の視聴者を考慮し、通常通りに行っています。一方、委員会室は40%落としています。これらは市民の理解を得られると思っています。

**問** それでは、議長として一番やりたいことは何でしょうか。

**議長** 議会改革ですね。これは公約として選挙公報に載せました。現状のままではいいとは思っていません。自分の議会運営委員長の経験からも考えていることがある。新しい議会のスタイルを作ったらよいと思います。

**問** 具体的にはどうですか。

**議長** 急に言われても…。例えば、代表質問と一般質問のあり方の棲み分け等ですが、各会派の意見を出してもらい、まとめていきたいです。



(写真:議長のうしろ左から)赤倉昭男代表、中山貞望・二川昭三の両副代表

**問** その会派の意見を聴くという考えですが、議長はいわば議会のスポークスマンです。しかし普段は議長個人のメッセージはほとんど聞こえてきません。言えない立場なのでしょうか。

**議長** そうは思いません。他市でも、議長の記者会見をしているところもあります。もし議会運営委員会でOKなら私も考えていきたい。ただ、ネタがなかなか難しい。(笑) 夏祭りにはアロハで出させて欲しい、なんかどうかな。今、議会は遠い存在になっているからね。

**問** 議会を市民に近づけるということですね。

**議長** 議員は遠い存在だと思われている。しゃべらせれば長い。威張っていると見られる。だから、私はあまり余計なことは言わないことにしている。自分もともと商人だから、両手を合わせ揉みながら市民と接していきたいですね。

**問** 「市長への手紙」に倣った「議長への手紙」というものを以前提案したことがあります。歴代の議長は聞いてくれなかった。行政と議会は車の両輪といわれ、市長も議長も同じ専用車を使うように、「手紙」制度はあってもいいのではないですか。

**議長** バランス上はあってもいいようですが、両者はなんでも同じことをする必要はないでしょう。議会はもっと立法の役割を果たしたい。議会として議員提案を活発化したいですね。

**問** ところで、議会は行政チェックという役割を担っています。それなのに過去10年間、相模原市議会が否決したのはたったの1本だけでした。それも、市長が嫌々出した市民からの直接請求である「住民投票条例案」でした。一方、昨年度は6200万円の政務調査費が用意されましたが、何の提案にも結びつきませんでしたね。

**議長** チェック機能を果たし、提案もゼロでない議会にしたいです。議会は変わらなくてはならない。いま私の口から言えないが、機運を高めていきたいです。まず、自治基本条例からすすめることになるでしょうね。議会基本条例なども、神奈川県議会のように、結局107の定数すら減らせなかった。この条例は自分たちの保身のためであってはならないと思っています。

**問** 「何々出来る」条例ではダメで、「何々しなければならぬ」条例でなくては意味が無いと思いますが。

**議長** 「出来る」条文がだめではなく、議会に都合の悪いものは外すとかいうようなものはダメです。4年間のうちに、必要なものはすすめるための組織は出来ていくと思います。

**問** 相模原市にぜひ必要な政策的な条例はないですか。たとえば議長がよく触れる“シティーセールス”の条例化は出来ませんか。役人は例規集がないと動きませんが。

**議長** 実は8年前には“シティーセールス”という言葉自体が中期計画にもなく、役所の反応はなかったけど、2年後に市政方針に市長が入れた。いまはJAXAの存在なんかその一つになっています。他市にでかけるときにも名刺だけ持って行くのではなく、市の営業も必要です。そんな条例も作らなければならないが、今日は議長としてだから、出来ればいいなと言うところです。

**問** あるローカル紙に議長は「市民に関心を持ってもらえる議会にしたい」と言っていたが、どこかの会派が提案をしないと議論が高まらないですね。市長提案は一方通行です。いったいどこで関心が持ってもらえそうですか。

**議長** 議会運営委員会かな。あそこには台本がないので、委員みんながその場で意見を出しています。議運委は努めて話し合い、採決は無いようにして最後は1本にまとめることになっている。与野党の力が拮抗してくれば、市長に何でも賛成ということにはならないと思う。

**問** さて、今回新人が15名入ってきました。本会主催の新人座談会や傍聴では、なかなか勉強しているし、先輩議員に比べて実力がありそうです。議長はどう評価していますか。どのようにコミュニケーションを取っていますか。

**議長** アドバイスというか失礼にならない程度に「よかったね」などと声をかけています。私の所属する総務委員会で見えていないので、まだはつきり言えませんが、皆さんに評価されて議長としては嬉しいです。新人に追いつかれないようにしたいです。これから4年間苦勞する人は結果が出ると思います。今は若手もベテランも時代の変化に対応していかなければなりません。半年後は皆さん同様、委員会などでの新人の動向が楽しみです。

**問** 委員会と言えば、各委員長はもっとしっかりした運営をしてもらいたい。先日の民生委員会の大沢洋子委員長の采配はひどかった。職員使用のマイクの雑音がひどく、室内のイライラが頂点に達してもシラン顔。別室で気づいた議会職員が入室、議事中止をアドバイス、ようやく「暫時休憩」とした。こんな委員会の一日も早いインターネット中継が必要ではないか。いつ頃実現しますか。

**議長** 中継開始は今年度中と思っています。12月議会で試行、3月議会実施と言うことになります。

**問** そういうニュースこそ議長の記者会見にいいでしょう。

**議長** ただ、記者の皆さんが集まってくれるかどうかです。笑)

**問** ところで、加山行政のよいところと問題点を聞かせてください。

**議長** 良くも悪くも、市長は真面目なんでしょうね。もっと言えば、真面目過ぎです。遊び心がない。例えば「ゆるキャラ」を作って被れば、と言ってもかぶらないでしょ。私なら被りたいですね。「議長こそ堅いのじゃないか。」の声に) 私の実家は酒屋だし、私は今コンビニの店長ですよ。選挙に関心のない人でも、あそこの店長なら投票しようと言うことで、当選したんですよ。笑)

**問** 市長の答弁は機械的に過ぎませんか。議長が何とかアドバイス出来ませんか。市民目線の議長の秘訣も教えてあげたらいかがですか。それと、議員の再質問にも答えさせるべきでしょ。

**議長** 最近はそうしてると思いませんか。答弁と言えば、議員が「ご答弁、ありがとうございます」はおかしいと思っています。ボクは絶対に言わないし、新人にもきちんとアドバイスしています。

**問** 議長は、リニア新幹線の相模原駅は“首都圏の入り口”になると、どこかで発言していましたが、入り口から首都圏への“通り道”だけになってはいけませんね。それと、「駅がほしい、ほしい」と言ったら、政令市の時のように、足下を見られて大きな負担を負わされるにちがひありません。

**議長** 経済効果はあると思うが、2200億円の割りあても問題です。開業が16年後と言うけど、甲府・相模原間を先行するという。相模原市の財布でやりたくない

し、窓口はあくまでも神奈川県で、そのために8人の職員も出向させている。県会議員にも期待しています。

**問** ところで、先ほどのシティーセールスのための相模原市の3大セールスポイントは何でしょうか。人工的な超魅力的な建造物などは何も無いと思いますが。

**議長** まず、旧市街地は土地が平らで使えるところが広い。次に首都圏の通勤圏で自然地帯との中間点、そして三つ目は災害に強い。人も企業も安心できる場所です。国際会議場なども、かつては幕張などもにぎわったが、いまでは東京ビッグサイトの一人舞台、考えなくてはなりませんね。

**問** 時間が迫りました。次に、市議会の傍聴環境についてお聞きしたい。委員会室に入る職員の数が多すぎます。国会も、県会も規模の割に少人数です。委員会室のレイアウト全体の改善が必要です。

**議長** 職員の多さは同感です。補佐的な人はいなくてもいいようにしたい。でも、各課一人は必要です。幹部はもっと責任を持たなくてははいけませんね。ただ、委員会室のレイアウトは仕方が無い。委員会は傍聴者のためだけでなく、審議のためのものであるわけです。(傍聴者への配慮に欠ける発言に、本会、啞然…)

**問** 次に、陳情者の補足説明ですが、地方自治法で保障されている「参考人制度」や「公聴会」の開催は有効に活用されていません。陳情は苦情じゃありません。市民の正当な提案だと理解して欲しい。町田市ですすでに実行しています。市民団体の全国調査で町田は6位なのに、相模原は100位にも入っていません。これでも政令市ですか。町田にも追いついていません。

**議長** それらは議会改革の問題ですね。私は議長だが、議会運営委員会の車の上に乗っているようなものです。

**問** 相模原市議会を理想の議会にしませんか。一問一答、対面式質疑、自由討論、傍聴自由、議会?場?の解放、発言する議長、そして名議長になりませんか。それこそ、シティーセールスの大きな柱になります。

**議長** 議長の任期も複数年(注:本市では2年交代)あるので、ワンマンになることは無いが、その間頑張っていきたいと思っています。選挙の投票率が低いのも事実、大いに市民の皆様に関心を持ってもらえるように議会運営に工夫を凝らしたいと思います。

**問** お忙しいところ、フランクなお話をありがとうございました。■

## 傍聴報告

□5月臨時会報告 5月16日

### 中村議長、野元副議長が誕生

5月16日(月)に平成23年相模原市議会5月臨時会が開催された。開催に先立ち、本会議に答弁要員として今後新たに出席する行政職員部・局長が紹介された。その結果、合計32名のうち、女性職員はゼロ。議員側も選挙で2名減の8人となり、男女共同参画社会の影はますます薄くなった。その後行われた正副議長の選挙は、“指名推薦”により**中村昌治(新)**第43代議長と**野元好美(民)**第47代副議長が決まり、続いて本会議場の議席指定や5常任委員会および議会運営委員会の各委員の選任、2人の監査委員(**稲垣稔(新)**、**関山由紀江(公)**)の選任が行われた。

午後再開した本会議では、専決処分の承認議案5件(大震災関連)と平成23年度相模原市一般会計補正予算〔第1号〕についての質問が**藤井(共)****江成(連)****市川(み相)****大槻(みク)**からあった。

## — 6月定例会 —

### ■本会議 意見と感想 (5月31日、6月8、9日) 第1日目

●加山市長が「所信表明演説」を行った。再選後初めてとあり、これまでと違った新鮮な中身を期待したが、相変わらず“各部門長が用意した文集”の朗読で総花的で平板な内容で心に響かない所信表明。リーダーとして何の成長もなく、だれ1人拍手するものなし。それにしても、あれだけ騒いだ統一地方選挙後初の議会への傍聴者はたった10人。市長や議員への関心はあまりにも低すぎる。

### 代表質問・個人質疑

●佐藤賢司(新)冒頭、市長の再選に祝意。所信表明に触れ、相模総合補給廠の一部共同使用実現への努力に敬意を示した。(市是が“全面返還”であることをお忘れなく)また、交通ネットワークの充実についてリニア新幹線駅を含めたが、市域の交通網改善とは結びつかないとの声もある。

●大沢洋子(民)議長の指名に「ハイ、大沢洋子！」と議場内に鳴り響く大声に、場内から苦笑。市民協働のまちづくりの質問の中で、「自治会への市当局の指導・監督などの関与がもっと必要」との弁。(何を勘違いしているのか。そうすると、“自治”会と言わないんじゃない?)

### ●加藤明德(公)

人口減少社会における自治体経営について、市はもつと人口問題を研究せよとの提言はよかった。なんと言っても「住宅用火災警報器の設置

現況を訊いた際、答弁で60.3%が設置済みとし、その根拠として市内の全世帯訪問実施の結果としたことに疑問を呈し、厳しく追求していたことには共感。市は真面目な答弁をする必要がある。

●藤井克彦(共)リニア中央新幹線の建設促進と市内への駅誘致の市民の考え方を知らるために「住民投票」実施の考えがあるかを質問。市長は「国の事業」を理由に、その考えは無いと答えた。巨額な地元負担を求められている公共事業を、そのような姿勢でいいものか、と問うていた。

●栗原大(みク)緑区に絡んだ道路や公共区域の改善策の提言などはよかったが、冒頭に所属会派の離合

### 会派の略称

(新)=新政クラブ 17名

(民)=民主・新無所属の会 12名

(公)=公明党相模原市議団 8名

(共)=日本共産党相模原市議団 4名

(連)=市民連合 3名

(みク)=みんなのクラブ 3名

(み相)=みんなの党相模原 2名

[議員定数 49名]

### 傍聴席でデジタル機器の使用はダメ!?

本会議休憩中の「傍聴者ロビー」での出来事。「お願いしますよ。」の市職員の言葉に、その傍聴者は「だったら、ここで(テレビモニターを見て)やりますから・・・」と不満そうに言った。近寄って見ると、最新のiPad2。「それを傍聴席で使って注意されたんですか？」と尋ねた。「ええ」すかさず、先ほどの職員が言う、「注意じゃなく、お願いします。」傍聴者「同じ事じゃないですか。」職員「前例がないので、検討しているところです。だから、お願いしているんです。」

全くもって議会は古い。今時、メモるのにパソコン始めデジタル機器は欠かせない。どこの企業の会議でも使われている。若手の議員が議場で使用したいと言っても、許さない。こんな事だから、議会は世の中から置いてきぼりにされている。それを聞いていた本会代表は言った「議員には使わせないほうが良い、遊ぶから」とのジョーク。そうなんですか?



や再質問時に中村議長への祝辞、最後には、歴代市長の銅像が建立されたことについて、加山市長は希望するか、などと少々代表質問の軌道を外れた発言に、ヤジが飛んでいた。

●金子豊貴男(連) 市長は所信表明で「総合計画」に1回しか触れなかったのはおかしいと苦言。この種の質問にはなめてかかる市長はまともに答弁無し。リニア新幹線駅の誘致と財源問題のテーマを挙げておきながら、金子独自の考えを聞きたかっただけに、他の質問者と重複するので触れないとしたのは残念だった。

●五十嵐千代(み相) 開口一番、「二元代表制にもとづいて質問する」と発言、議員のあるべき姿勢を明確にしたことが印象的だった。こんなところが、これまでに見られなかったフレッシュさだ。リニア新幹線については「大きい事業ほど、早くから市民の参加を」と訴え、過去の経緯を確かめつつ、総費用、需要、経済効果、地元負担、市民意見の聞き取りなど、丁寧に質問し、簡潔・明快な議員登場を印象づけた。

### 総務委員会 6月10日

●新人議員のデビューが注目される6月定例会。いつものように各会派の質問者から順々に質疑、追求、要望など、今までになく熱がこもっていたように思えたが、新人に対する教育もあったのか。通常、正副議長は委員会での発言は少ないのが慣習のようだったが、この日は野元副議長がきちんと質疑をした。悪しき慣習が改善されることを期待する。新人2人(久保田浩孝=公、関根雅吾郎=民)も発言したが、まずは勉強になったのではないかな。

一方、行政側の答弁にはスピード感がなく、政令市移行後も旧態依然の仕事ぶりで、質疑においても業務運営や頭の切り替えが出来ているのか問題が多いと感じた。他議員の質疑を観察することは新人にとってはいい勉強なのに、傍聴がたった5人だけだった。全新人が出席するぐらいの貪欲な熱意が望まれた。

### 環境経済委員会 6月13日

新人議員の小林倫明(みく)がいきなり副委員長を務め、10名の委員中新人が5名を占める委員会として注目。議長経験者の長友義樹(民)、折笠峰夫(新)も在籍、4回当選のベテラン加藤明德委員長(公)の采配が鍵になりそうだ。議案は2つ、陳情が1件の審査だけだったが、議案第66号損害賠償の決定(交通事故)は異例の1400万円で、小林(みく)が保険料

の詳細、市川(み相)が職員の懲罰、大崎(公)が被害者への支払い内訳など、基本的な情報をきちんと求めたのは評価出来る。だが、長友が職員の緊張感欠如を指摘して小星副市長の答弁を得た際、「副市長まで答弁させて申し訳ない」とコメント。違和感を覚え、新人委員に誤った議会と行政の関係を伝えたのではないだろうか。小野(新)は今年の「さがみはらフェスタ」について、その目的、予算、周知対策など推進の立場で質疑した。大田(共)は市営住宅間の引っ越しに際しての業者の仕事に細かな注文を付けていた。

陳情(神奈川県最低賃金改定案)には、質疑・討論は皆無。採決では総員が賛成した。聴いている限り、この陳情は毎回審議ゼロで採択されるが、何のために陳情するのか傍聴者にはわからない。

### 民生委員会 6月14日

この委員会で議案が「平成23年度の一般会計補正予算」たった一つは珍しい。従って答弁職員は山口副市長以下15名と少数。また、新人議員の傍聴は五十嵐(み相)、市川(み相)、関根(民)、小野(新)、大田(共)、小田(民)らが熱心に耳を傾けていた。議案の質疑では、新人の桜井(民)、西屋(公)、大槻(みく)、白井(民)が、ケースワーカー、保健師に関する業務内容、派遣条件、増員計画など基本的な質疑を行っていた。

そんな中で、委員の質問に答弁中の職員のマイクに大きな雑音が発生、2~3分続いたにも関わらず大沢洋子委員長は全く意に介さず、答弁を続けさせた。これに対し、室外にいた職員が慌てて部屋にはいり、委員長に休憩を助言、ようやく修理作業に入り、約10分が経過したあと、同委員長は何事もなかったかのように、説明もなく議事再開した!また、質疑のあと、「討論に入ります」の宣言に続いて、委員に確認もせず、「ありませんので討論を終結いたします」と事務局が差し出したメモを読んでいた。以上2つの目撃で、委員長の選任については適材適所の原則を議会は心して欲しいと思った。

### 建設委員会 6月15日

米山(公)、久保田義(新)、藤井(共)、鈴木(民)が質問。この中で、建物の制限に関する条例化の効用については、建築確認の段階で強制力ができるとの市の説明。南区南台の再開発B地区建造物の高さは104mに制限され、住宅地では15mとの答弁。平成23年度予算については、主にリニア関連で、小野沢(新)、



中村知(民)、小林正(市)、久保田義(新)、山岸(新)、米山(公)、藤井(共)らが質問したが、答弁では、建設地は車両基地として相原高校跡地の20~50ヘクタール、駅の建設費用は2200億円と言われるが、市は“担える負担額が限度”とする考えを示した。また、リニアの消費電力は3.5万kwで、現在の新幹線は1万kw、1108万人が飛行機からリニアに切り替えるとしてJR東海が想定していることが分かった。

## 文教委員会 6月16日

一般会計補正予算所管部分のうち、幼稚園、保育園、小学校連携推進事業について、各委員が重要施策として取り上げ、問題点を指摘した。江成委員(連)は、相互の信頼関係を築くことが大事、重要項目は「個人情報だから」との言い訳でなく小学校へきちんと伝えるべきと述べた。溝淵委員(新)は、研究ばかりしていないで、実行して相互の連携を密にと訴えていた。新人の五十嵐委員(み相)は簡潔で歯切れよく、もの慣れていて、全然「新人」ではなかった。ベテランの栄委員(公)は声が小さく、俯いての発言は不明瞭、傍聴への配慮がほしかった。

## 一般質問 (意見と感想) (6月27、28、29日)

—順不同—

●長友義樹(民) 相模ダム決壊の不安を指摘したところ絶対安全と曖昧に答えた職員に、もっと真剣に県に聞き質せと注文。極めつきは「リニア新駅建設」の地元負担問題で、石川まちづくり企画部長の「市が受ける利益の範囲内で負担に応じる」との不明確な答弁に強く反発、深く食い下がっていた。市側のいい加減な答弁にはとことん食い下がるいつもの姿勢は堅持。

●市川 圭(み相) 救急患者の受け入れ状況について、93%は病院3カ所以内で受け入れられているとの答弁に、他の7%はどうなっているのかと適切な質問をした。また、オストメイト(人工肛門・膀胱)者用のトイレ問題では市内に40カ所あるとの情報を引き出した。地域経済の質問で、再開発では既存の商店街と良く話し合うよう求め、的確な発言。ただ、3問目を「要望」としたが、新人なら3つぐらいの質問はきちんと出せなくてははいけない。

●小田貴久(民) 大勢の中央大学の後輩学生が傍聴。若い学生がどんな関心からでも地方自治を考えるきっかけとなるのは望ましい。質問項目も、「学生のまちづくり参加促進について」と議員最年少らしいもの。今後は行政の実態をよく観察、または自分の挙げた「公約」

をにらみながら、例えば「議員定数半減」などを取り上げてはどうか。

●宮下奉機(新) 4年半ぶりの議員復活。最年少・小田の直後の登壇、「フレッシュな青年のあとだが、私は自分流でやる」と学生達が立ち去った議場で、緑区の交通対策、地方分権の確立、消防団員確保の項目を淡々と演説した。中で、自治会を住民自治の基盤組織の一環と述べていたが、加入率の低さや運営の実態をもっと研究してほしい。

●米山定克(公) 「しばらくのご静聴をよろしく」がいつもの枕詞だが、相変わらず重苦しく落ち込んでいく。これも公明党のオハコだが、名称にこだわり、早速話題のリニア新幹線の駅名に「新相模原駅」を提案していた。“提案”といえば、選挙の期日前投票所をJR相模原駅に開設することも選挙管理委員会に提案していた。

●古内 明(新) 取り上げた質問のうち、消防行政については、市には災害救助犬がないので、川崎などから借りてくることが分かった。落書き防止策は何度議会でも聞いたことか、しかし一向に消えない落書きに古内も業を煮やして条例制定を主張した。

●桜井はるな(民) 議長の指名を受けての登壇で、議長への儀礼の前に同僚議員や市長に向かって会釈で挨拶していた。これは質疑の本質の意味を悟らせる新鮮な姿だ。ただし「ご答弁ありがとうございます」は、市長が「ご質問ありがとうございます」と言わないのと同様、不要なセリフと考えたほうがよい。質問では、小児医療費の所得制限肯定、介護講習会の医師会への丸投げの批判など、自説がきちんと分かるスタイルは良かった。

●大田 浩(共) 市長がめったに無いことに、答弁に際し、「大田議員さん」と「さん」付けで始めた。質問は自分の「公約」の「コミュニティーバス」の導入促進を一番に置いた。バス業者が言う①定期バスごとの乗客10人以上、②経費の50%以上の売り上げ、の運行可能条件の見直しや赤字であっても実施すべきだと訴えた。

●栄 裕明(公) 町田市では24年度からの導入実施が決まっている複式簿記の公会計導入と簿記資格取得者の必要性を主張した。住宅政策について、緑区内の帝京大学薬学部の移転後の施設を、民間借り上げ制度の対象にと提案。その方針はないとの市の答弁。学校の「いじめ」防止について、教育長は「教師にいじめを発見できる力量を持たせる研修を行う」という答弁。今頃、そんな研修か。

●**江成直士(連)**「市民協働」の推進、NPOとの連携を説いていたが、これまでの事業はほとんどNPOであることから、広がり限界を感じながら聞いた。「課題」の規模によっては解決は困難だと思うのは提供される資金の規模であるが、その議論がなかった。また、推進の機能をもつ「市民活動サポートセンター」の3行政区への設置も語られたが、同感。

●**沼倉孝太(新)**「災害支援」をとりあげ、現地は家、車、金が欠かせないと述べ、息の長い支援を主張。具体的提案として、市の公的施設にある自動販売機の商品価格に震災の義援金を上乘せをと、興奮気味に挙げた。市は、設置者は業者なので提案については不可能と答弁していた。また、ボランティア協会の2名派遣は少ないとコメントしていた。2問目以下を注目したが、相変わらず、うまく構成できなかったのは残念だった。

●**溝渕誠之(新)**市職員の綱紀肅正について課長のリーダーシップを要請、震災対策では米軍の支援協定、計画停電では対象から病院を除外することを要請した。高齢のためか質問は声が小さく呂律もおかしくなっていて、本を掲げて話をした最初の部分は全く聞き取れなかった。無所属で当選し、新政クラブを結成するという分かりにくい会派だが、議員の年齢制限を検討してもらいたい。

●**森 繁之(民)**大震災後の経済状況は5月から回復基調なので、4500社に調査予定、中止していた市内のイベントも開始、秋頃には全面開催するという。また、今後の災害対策訓練はマグニチュード6.9と7.9を想定したものとするなどの答弁を得た。

●**菅原康行(公)**質問した節電対策に、市は15%を目標に、省エネ家電の奨励、庁内照明のLED化、太陽光発電はソーラーバンク構想で進めている県の研究会の動きを注視していくという。別に取り上げた自転車事故対策(市の保有台数40万台)で、市は児童交通公園の整備や小学生に“免許証”を配布するなどのアイデアを示した。

●**小野沢耕一(新)**緑区のシティーセールスについて語り、平成4年から始め20周年記念を迎える道志川合唱祭にはボニージャックスが出演すること、それを全国に発信する計画を表明した。また、市は豊かな自然一丹沢めぐりには4千人が参加しているが、平成24年には「藤野山並トレイルレース」を計画していることを明かした。

●**松永千賀子(共)**正規教員の定数問題で、市では200名不足の状態が3年も続いており、その補充を臨時的任用職員で補っていることが分かった。また、課題の自転車事故対策では小学3年生以上を対象に安全教育を実施し、新道を作るときには自転車専用道を規定する条例の検討も行うと答弁した。

●**寺田弘子(新)**がん検診についての質問で、市が実施している受診者は15.8%だったが、一定の効果はあると考えているとの評価だった。環境にやさしい乗り物・自転車についての質問で、市の安全事業がおざなりと指摘し、バス停における歩行者安全についてバス業者への指導の徹底を求めた。質問が整理されて、真面目さが感じられた。

●**関根雅吾郎(民)**指名を受けるや大声で名乗り、壇の下までダッシュ、大げさに礼をする姿は、小学生のグループ研究の発表会のような。ただ、壇上での質問は朗読だったが、自分の思いを込めながら、市長と違い、聞かせる姿勢がよく伝わった。

●**小林正(市)**市の前保有地に小川前市長の胸像が建立されたことで、便宜供与ではないか、今後同様の要望についてどう対処するかと詰問した。市は否定的だったが、叩けばいくらでも埃が出る感じがした。ただ、この議員はなにか狭い領域に限定した問題を取り上げる傾向があるが、もっと広域な課題を同様の手法で取り上げるよう期待したい。

●**大槻 研(みく)**大上段に振りかざした質問はみなはぐらかされた。例えば、今次の大震災の災禍を政治家として歴史的にどう位置付けるかとの問いには案の定市長は噛み合った答えをしなかった。ほかに、シティーセールスの一つとして、相模原国立病院機構がアレルギー疾患の先進施設であることから、JAXA並みに全国にPRをとの提言に、市は同機構と講演会を開催し専門講師を派遣していることや花粉症対策を10年計画で進めていることなど回答。ここでも答えは噛み合っていなかった。

●**山岸一雄(新)**防災問題の中で、相模ダムの安全性を質し、市が耐震性を確認したとの回答に、大丈夫ならその旨を早く市民にPRせよと要望していた。山岸はリニア推進派だが、県との連携の必要性を主張、市民の意向確認ではなく、さっさと県と決めてしまうという姿勢が露呈した。おまけに、最後の要望として、「市長に夢を語ってもらいたい」と要請、それを受けた市長は照れながらもリニアへの夢を語っていた。■

## 市議選で無効票・白票が急増！ 白票が意味するものは？

相模原市選挙管理委員会が公表した今年4月に行われた第17回統一地方選挙の「市議会議員選挙の無効投票に関する調査」によると、いわゆる「無効票」は前回の同選挙（平成19年度）に比べ3割以上も増え8,434票、そのうち「白票」は2倍近い5,673票もあった。無効票に占める白票の比率も67.2%で、前回の47.9%から19.3%も増えた。

「無効票」とは、候補者以外の名前、落書き、名前が読み取れないもの、何も記入しない白紙（＝白票）などが総称される。今年の選挙では、この「無効票」が増え、特に白票が増えた。この「白票」が意味するものは、やはり、「選びたい人がいない」ということに尽きるのか？

### 平成23年選挙と平成19年選挙との比較

	平成19年選挙	平成23年選挙	平成23と平成19との差
投票総数	261,283	285,057	23,774
無効票	6,309	8,434	2,125
(内) 白票	3,027	5,673	2,646
無効票に占める白票の比率	47.98%	67.26%	19.28%

地域により「無効票」と「白票」が前回に比較してどう変化したかを解明しなかったが、前回統計は、旧相模原市域と津久井4町の5地区別に、今回は3行政区別であったため、地区比較をすることはできなかった。

平成23年の行政区別の比較は次のとおりになった。

区別による比較	緑区	中央区	南区
投票総数	73,753	104,136	107,168
無効票	1,838	2,735	3,861
(内) 白票数	1,159	1,829	2,685
無効票に占める白票の比率	63.10%	66.87%	69.54%
投票総数に占める白票の比率	1.57%	1.76%	2.50%

なぜ南区に無効・白票が多いのかチェックしたところ、緑区、中央区に比べ、候補者以外の名前を書いた無効票（これは3地区がほぼ同率）よりも、断然、落書きに類するものが多かった。単に「選べるよい候補者がいない」という無効票ではなく、分析しがたい何か特殊な地域性があるのではないかと。

なお、上記の2表は、相模原市選挙管理委員会の資料にもとづき本会が作成したものである。■

## 「全員協議会」で3議員が厳しい発言

市が「相模原市外郭団体に係る改革プラン（案）の策定」と「キャンプ淵野辺保留地整備計画（案）の策定」の2案件を説明。前者は市の出資率4分の1以上の14法人について、廃止するか存続するかの案件だが、委嘱された検討会での結論は、「市畜産振興会」の解散だけで、他はさらに検討を要することになった。これに対し、菅原康行議員は「平成16年から何を検討してきたのか、もっとスピード感を持ってスリム化できなかったのか。検討委員のメンバーはだれか」、小林正明議員は「土地開発公社は前時代の産物、解散すべきだ」、金子豊貴男議員は「市の職員は引き上げ、プロパー職員のモチベーションをあげ、できれば市職員に引き上げるということを制度化すべきだ」と厳しい意見や提言をした。

後者の案件には注目するような発言はなく、計画にある諸施設への交通アクセスや緑の環境保全などが指摘された程度だったが、溝淵誠之議員が突然、「加山市長は相模大野の米軍医療施設の跡地に、公園やグリーンホール、伊勢丹などの誘致に努力した。ここは市長の“最後の開発”。大胆な加山市長を信用しているので頑張してほしい」と発言、さすがに傍聴者だけでなく議員たちも苦笑を禁じ得なかったようだ。■

## 有力地方紙が「通信簿」を紹介し論評

創刊133年を誇る栃木県紙『下野新聞（しもつけしんぶん）』（宇都宮市）に、6月22日、本会が発行した「市議会議員の通信簿」が紹介された。記事は同紙第一面のコラム「雷鳴抄」で、論説委員が書いたもの。記事では、本会が通信簿を始めた経緯、その中身、受けた抗議などを紹介したうえで、新聞は選挙になると投票を呼び掛けるが、議会を変えていくにはそれだけではないらしいと述べ、さらに居眠りや離席などというレベルで議員が評価されるのは情けない限りだとしている。（原文は下段に掲載）■

## 『日経グローバル』に活動紹介



日本経済新聞社が発行する隔週刊誌『日経グローバル』6月20日号に、本会が「議員の通信簿」発行の「草分け」として、3ページにわたり紹介された。記事では、「通信簿」の詳しい内容説明と、本会が6月4日に開催した緊急座談会「2011期待の新人議員は語る」の取材報告として、出席した新人の発言内容をしながら、新人議員15人のうち8人だけの参加となったのは「本会が敬遠されたのではないか」との政治記者らしい印象を持ったことも付記されていた。

「通信簿」については、3度目の発行に至った経緯や傍聴活動結果をどのような評価手順を用いて採点したかや具体的な評価項目や成績のランキング公表についての本会の考え方も伝えられた。また、今回初めて通信簿発行や内容に対する抗議（謝罪と取り消しの要求）が最大会派「新政クラブ」から出され、その要求を断った事も紹介された。

編集後記：4 今回の統一地方選挙では、市長は変わらず、議会は15新人を含む49議員が確定、2年ぶりの正副議長の交代もあった。本号は、恒例の「新人議員座談会」と中村昌治新議長の「議長インタビュー」の二つをダブルトップ記事とした。座談会での新人発言は、今後の議会改革に期待を持たせた。議会改革をめざすと明言した議

## 高校授業の教材に「通信簿」

工学院大学附属高等学校（八王子市）3年生の政治経済の授業に、本会発行の『相模原市議会議員の通信簿』が教材として使用された。担当教諭の土屋美香さん（写真、南区在住）の授業のテーマは「選挙」で、教室で映画『選挙』を鑑賞させた上で、「選挙と地方自治」を語るために欠かせない地方議員の説明に格好の教材として、地域で話題の「通信簿」を用い、市民と議員の関係を説明したものの。



土屋教諭によると、たいていの生徒は教員が見せる教材にはあまり積極的に興味を示さないものだが、配布した「通信簿」への関心は驚くほど高く、例えば、落選した某議員への総評コメント「市長とのツーショット・ポスターで二元代表制への無知を露呈」については、事前に「二元代表制」の意味を教えていたこともあり、「議員なのに首長と議員をそれぞれ住民が選ぶ意味をわかってないんだね」と、しっかり授業の内容を踏まえた反応が返ってきたという。

今回の授業について、土屋教諭は「私の授業では、現実と教室をつなげ、日本の抱える問題点を認識させるよう心掛けている。今回出会ったこの「通信簿」は、私の授業の狙いを達成するのに最適なもので、発行した「相模原市議会をよくする会」の活動は、市民にとってとても貴重なものだと感じた。映画の主人公の山内氏も、「通信簿」教材の試みを評価してくれた。」とコメントしている。

なお、土屋教諭は東京農業大学第一高等学校〈世田谷区〉2年生の現代社会の授業も同様の内容で行った。■

編集後記：4 今回の統一地方選挙では、市長は変わらず、議会は15新人を含む49議員が確定、2年ぶりの正副議長の交代もあった。本号は、恒例の「新人議員座談会」と中村昌治新議長の「議長インタビュー」の二つをダブルトップ記事とした。座談会での新人発言は、今後の議会改革に期待を持たせた。議会改革をめざすと明言した議

長とともに、ぜひ「有言実行」を願いたい。

傍聴報告には、新人議員の見せ場である「一般質問」の様子も含まれている。先輩議員もフレッシュな発言に刺激を受けたはずだ。新人各位は「初心」を忘れず4年間頑張ってもらいたい。

### □入会申込書□

<入会金不要>

私は会の趣旨に賛同し入会します。

(A、Bどちらかに○をつけてください。)

氏名 \_\_\_\_\_

A. 会員（傍聴など活動する）として

住所 \_\_\_\_\_

B. 賛助会員（購読、支援する）として

電話・FAX \_\_\_\_\_

★年会費（会員 2000 円、賛助会員 1 口 1000 円から）

★郵便振込口座番号：00280-6-48430 相模原市議会をよくする会

★申込み先：相模原市議会をよくする会・事務局（代表／赤倉昭男）

〒252-0314 相模原市南区南台5-13-8 電話・FAX 042-749-9140

★ホームページ：<http://yokusurukai.main.jp>